

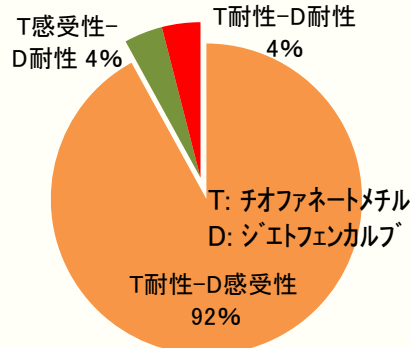
# イチゴ炭疽病の薬剤耐性菌の発生状況と有効な防除薬剤

岐阜県内のイチゴ産地では、炭疽病の防除に苦慮しています。この要因として薬剤耐性菌の発生が関与している可能性が考えられました。そこで、耐性菌発生リスクの高い殺菌剤について、県内の耐性菌発生状況を明らかにするとともに、有効な防除薬剤について検討しました。

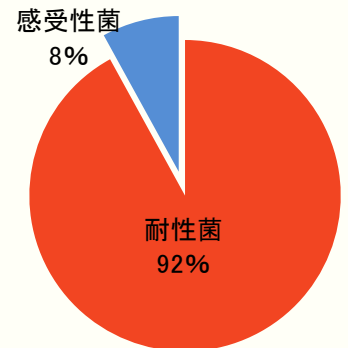


炭疽病によるイチゴ苗の被害

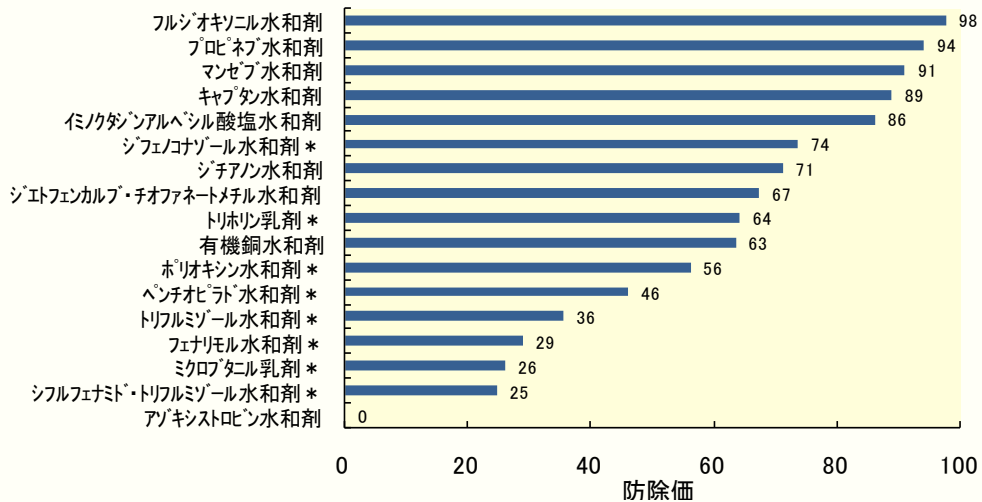
チオファネートメチル、ジエトフェンカルブ



アゾキシストロビン



耐性菌検定結果(2008~09)



炭疽病に対する各殺菌剤の防除効果(ほ場試験、2012)

注) Cg6菌株(チオファネートメチル耐性、ジエトフェンカルブ感受性、アゾキシストロビン耐性)を使用、接種1~2日後に薬剤散布。\*印はイチゴうどんこ病等に登録されているが炭疽病に登録がない薬剤

## (研究成果)

- 岐阜県内のイチゴ産地では、チオファネートメチル耐性でジエトフェンカルブ感受性、アゾキシストロビン耐性の炭疽病菌が全体の9割以上を占めていることが分かりました。また、チオファネートメチルとジエトフェンカルブの両剤に耐性を示す菌株が一部で確認されました。
- 県内で発生している炭疽病に対して、フルジオキシニル水和剤やプロピネブ水和剤、マンゼブ水和剤、キャプタン水和剤およびイミノクタジナルベシル酸塩水和剤の防除効果が高いことが分かりました。